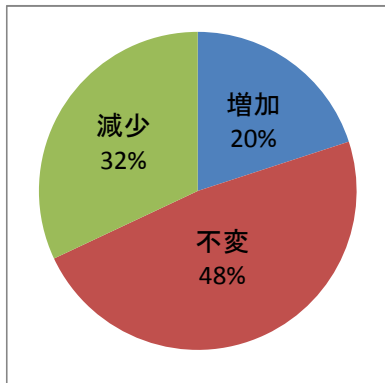


■ データから見た業界の動き

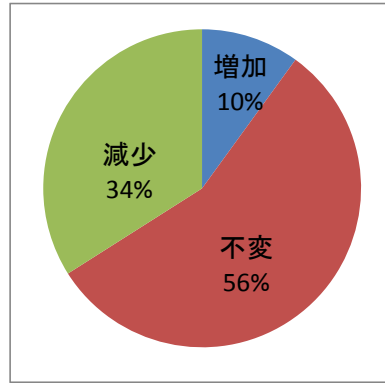
(平成25年6月分)

● 2012 / 6

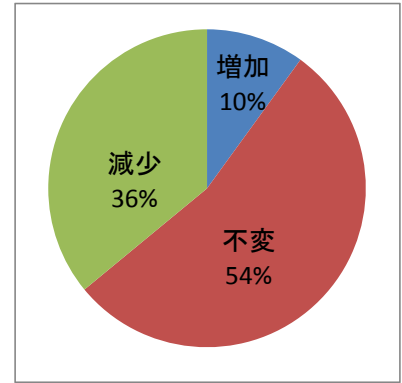
売上高 (前年同月比)



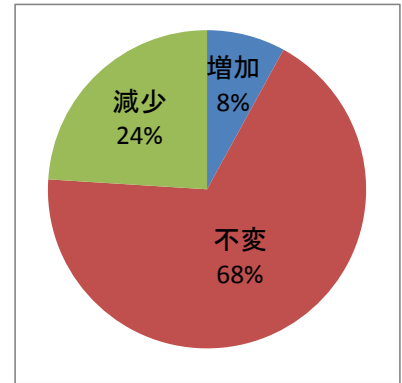
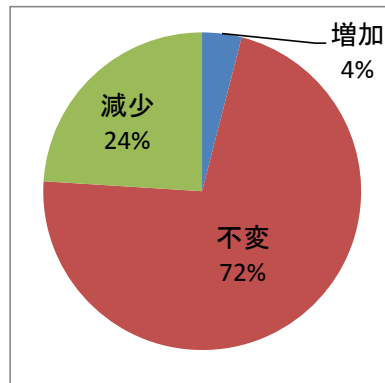
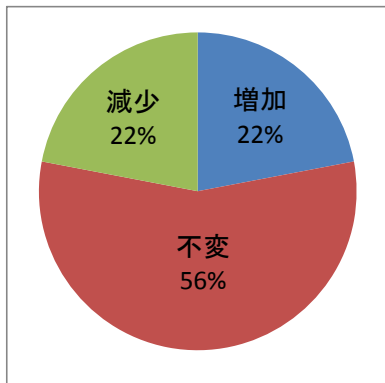
収益状況 (前年同月比)



景況感 (前年同月比)



● 2013 / 6



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

	製造業			非製造業			合計		
	2012/6	2013/5	2013/6	2012/6	2013/5	2013/6	2012/6	2013/5	2013/6
対前年・前月・当月									
売上高	-5	-20	-10	-17	-10	7	-12	-14	0
収益状況	-20	0	-10	-27	-17	-27	-24	-10	-20
景況感	-15	-15	-10	-33	-13	-20	-26	-14	-16

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D. I値

■ 概 況

本県6月の景況は、全業種のD I値がは、売上高±0（前年同月比+12）、収益状況-20（前年同月比+4）、景況感-16（前年同月比+10）となっており、前年同月比では全ての項目で改善した。業種別のD I値では製造業で、売上高-10（前年同月比-5）、収益状況は-10（前年同月比+10）、景況感-10（前年同月比+5）。非製造業で、売上高+7（前年同月比+24）、収益状況-27（前年同月比±0）、景況感-20（前年同月比+13）となった。

前月比では、製造業の売上高は10ポイント、景況感が5ポイントと改善したが、収益状況は10ポイント悪化した。非製造業では、売上高が17ポイントと改善したが、収益状況が10ポイント、景況感は7ポイントとD I値が悪化した。

情報連絡員による県内の6月の業況報告は、円安による原材料の値上げが進む中、販売価格への転嫁ができない中小企業は、収益環境の悪化を懸念する報告が多く見られた。

しかし、消費者マインドが改善傾向にあり、個人消費が緩やかに広がりを見せている報告もあった。

製造業では、「発注単価が安くなり対応できない。」「売上が減少している。」といった厳しい報告がある一方で、「来春の消費税増税を見据えた駆け込み需要が出始めている」との報告もあった。

非製造業では、景気対策による公共事業の執行が本格化するなかで、建設管理技術者や若年労働者の不足を懸念する報告があった。また、百貨店を中心に高額な宝飾品が動き始めたとの報告や富士山世界文化遺産登録を受け旅行プランを企画する旅行代理店等からの宿泊状況の問い合わせが多い等の報告もあった。

秋以降の景気回復にますます期待が高まる。

■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原材料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	伊勢エビや鮑等の生鮮の取扱いが前月に引き続き好調。全体の売上は、前年同月比110%。しかし、原材料が高騰。
食料品（洋菓子製造）	自社製品、OEM、輸出等、全ての項目が好調。全体の売上は、前年同月比111%。ただし、小麦粉の値上がりに続き、乳製品も値上げが見込まれるため採算面は厳しい。
食料品（菓子）	円安の影響による原材料のコスト増は避けられない。
食料品（ワイン）	為替変動により大手メーカーは、販売価格を値上げする予定。
木材・木製品製造	消費税増税を見据えてプレカット加工の仕事量が上昇傾向にある。特に、木材持込のプレカットが増えている。しかし、原木の木材販売は苦戦している。
一般機器（1）	親会社からの発注が若干出始めた。しかし、低単価のため対応できない製品もある。
一般機器（2）	年々、売上が悪化している。
電気機器	全体的にはリーマンショック後と同じくらいに、景況感は悪い。
その他（宝飾①）	多少、高額商品が現金取引で動くようになっているが業界の業況は依然悪い。
その他（宝飾②）	金相場が下降しているが、売上も下がっている。

● 非製造業

卸売（宝飾）	昨年と比較すると若干売上が増加している。百貨店を中心に高額品が動き出しているが、産地は景気回復の実感はない。
小売（青果）	多少売上が増加している
小売（食肉）	円安による飼料高の影響で、枝肉・部分肉や輸入肉等の値上がりで利益が確保できない。固定客の来店頻度や客単価は、減少傾向にあるが新規の若年層家庭の頻度は増加傾向にある。安心・安全を求める子育て世代へ訴求効果があらわれてきた。
小売（水産物）	円安の影響で輸入魚介類が値上がりし、6月はハム、ソーセージ等の肉加工品が飼料となる穀物の値上がりを背景に約8%程度値上げされた。しかし、売上不振への影響を恐れ価格転嫁できない。
小売（電機製品）	暑さとともにエアコンは順調に推移。太陽光関連は、大型物件の成約が増し総売上に貢献。LEDシーリングライトは価格ダウンにより台数的には、伸長しているが販売額は伸び悩んでいる。
小売（石油）	6月は、原油調達コストは下落基調となったが、元売各社は以前からの円安による差損を埋めるため1円程度の卸売価格の値上げをはかった。また、ガソリン、灯油、軽油の販売量は増加せず県内のガソリンスタンドの販売価格は横ばいで推移した。
商店街(1)	多少、来街者が増えてきたように思えるが、全体として前年同月並みの状況。
商店街(2)	消費低迷。電気料金の値上げ等により経費増。
宿泊業(1)	富士山世界文化遺産登録により関西地域の旅行代理店から問い合わせがある。秋以降の集客に期待したい。
美容業	入店客数は増加傾向にある。しかし、暑さのためショートカットを希望する客が多く客単価増には繋がらない。
建設業（総合）	管理技術者や若年労働力の不足が課題。
建設業（鉄構）	小規模な事業所に見積依頼が集中している。しかし、低価格での受注競争のため受注までには至らず、稼働率は80%程度である。
設備工事（管設備）	5月の新設住宅着工戸数は、県内13市で404戸（前年同月比97戸増）、甲府市については、107戸（前年同月比20戸増）。景気回復へ期待する。
運輸（バス）	燃料高騰により利益率は落ちている。そのため、短距離の仕事を選ぶ傾向が見受けられる。
運輸（トラック）	山梨の特産品の桃やブドウが、開花期や結実期の天候不順により近年例を見ない不作のため出荷量が減少し配送量も減少しているため収益への影響を懸念。燃料の高止まりが経営を圧迫し続けているが打つ手がない状況。